

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201943		
法人名	株式会社 アバンセラライフサポート		
事業所名	グループホームこころ(1階)		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村東373-1		
自己評価作成日	令和6年2月12日	評価結果市町村受理日	令和6年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2372201943-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和6年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の一人ひとりが、その人らしく安心して生活できる様に支援しています。その為に利用者様の体調に気を配り問題があれば、かかりつけ医に相談して対応しています。
また、やりがいや楽しみを感じていただける様に、施設の中のできる事をお願いしたり、日々のレクリエーションを楽しんでいただけるように、工夫してしています。
近所の喫茶店でモーニングをいただいたり、気候の良い時は、施設の周りを散歩して地域の様子も感じていただけるように支援しています。ご家族様には面会時、日頃の様子をお伝えしてご希望などを伺うようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の健康や安全を見守りながら、些細な変化も見逃さず、利用者一人ひとりの思いや暮らしを尊重して「ここがわが家」と思ってもらえる支援に取り組んでいる。自立支援の中で、つい手を貸してしまいいそうになるところを見守りに徹し、日々の暮らしを生活リハビリに繋げていくよう取り組んでいる。その結果、2人介助が必要だった利用者が1人介助が可能になった事例もある。
近隣の喫茶店では馴染みの存在となっており、運営推進会議には多様な人材の参加がある。ホーム行事には家族や地域住民の参加が得られるなど、地域に認められ多くの協力が得られている。職員は研修を通じて研鑽を積み、また先輩職員が手本となって互いの信頼関係を築き、利用者本位の自立支援に一体感をもって取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針、こころの理念をフロアーに掲げている。毎朝の申し送り時出勤職員が唱和して、実践につなげている。	理念や指針の一つをユニットごとに唱和し、「ここは我が家」と思ってもらえる支援に繋がっている。理念は日常の接遇に繋がっており、慣れに陥らないよう取り組み、できることは自分で行う自立の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加している。施設のクリスマス会に地域の方も招待し参加して頂いている。近くの喫茶店に行き、顔なじみになっている。	コロナ禍で困難だった地域交流は徐々に再開し、地域行事への参加やホーム行事での地域住民の受入れが行われている。隣人からは農作物のお裾分けがあり、喫茶店では常連として地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年の5月より徐々にイベントの声掛けをさせていただき、施設への理解を深めていただくようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年5月より2ヶ月に1回運営推進会議を開催しています。施設の活動や状況を報告して、意見をいただいている。	利用者や家族、地域代表、行政が参加してホームの報告を中心に行っている。議題によっては知見者が参加し、情報提供を行っている。参加者からの質問を通じて、認知症の理解を深めてもらう場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の利用者様の様子を年2回報告して、1月には市の担当者が施設で面会されています。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員か、市の担当職員のいずれかが参加し、ホームの現状を理解している。行政主催のケアマネジャー会やセミナーにも積極的に参加し、連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の会議を3ヶ月に1回、開催しています。本社の研修にも参加して、学習し実践しています。	3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を開催し、事例検討や振り返りを行い、議事録をもって職員に周知している。研修を通じて拘束と安全確保の違いを理解し、スピーチロックについては言葉の言い換えをどのように行うかを、具体例を挙げて検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社の研修を受け、ミーティングで話し合いにより、身体拘束をしないケアを正しく理解し、取り組んでいる。本社施設長会議でも担当者から話しがあり、虐待防止の徹底を職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の後見人である司法書士さんに困った時は相談できる環境です。3月の運営推進会議で後見人についての講話を予定しており、職員も知識を高めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとっていただき、ご家族様の不安や疑問に対して誠意を持ってお答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置してある来所記録に意見を記入できるようにしている。また、面会時、電話連絡時に利用者様のご様子を報告して、家族様の意見を伺い運営に反映させている。	面会やクリスマス会等のホーム行事、運営推進会議と、家族がホームを訪れる機会が多い。その都度家族の要望や意見を聞き取り、電話連絡と併せて意思疎通を密にし、可能な限りの配慮、対応を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所には代表者への意見が伝えられるように提案箱が設置されている。また、ミーティングや申し送り時に意見を伝えてもらっている。	毎月のフロアミーティングや申し送り時に留まらず、日常の何気ない会話の中で意見や要望の聞き取りができる雰囲気づくりに努めている。職員の定着は良く、忌憚なく意見交換できる関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回職員全員に自己評価をしてもらい、本社で給与の見直しを検討している。資格取得のための研修を本社で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップのため、本社で研修の年間計画があり、順次参加して知識を高めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	おでかけ広場に参加させていただき、交流している。また、法人内でのリモート会議、研修に参加して情報交換の場にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご本人、ご家族の要望を十分に聞かせてもらっている。入所前にご本人とお会いして状況、生活習慣を把握して安心して入所していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設を見学していただき、困っていることや質問を伺い、気軽に話せる関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供前に伺っている情報やアセスメントをもとに職員と共有して、必要な支援を提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とのコミュニケーションをとることで希望を把握して、できることはしていただき、充実感を感じてもらおうよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、病院受診があった時に近況報告をしている。ご本人の様子を家族様と共有して、寄り添い協力をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症に注意していただきながら、家族や友人との面会、家族との外出、外泊が自由にできるようにしている。	喫茶店などの外出先で顔馴染みと交流したり、家族支援で美容室や食事処、墓参りや毎週自宅に帰るなど、積極的な支援が行われている。定期的に出かける喫茶店は、入居後の新しい馴染みにもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席はできるだけよい関係の方同士が同じテーブルになるように考えています。お互いに顔を見て話ができるよう配置しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍以前はお見舞いに行ったり、葬儀に参列したりしていたが、コロナ禍以後は退所後の繋がりは難しくなっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員がコミュニケーションを密にとり情報を共有して、ご本人の希望を把握するよう努めている。業務に入る前には必ずおひとりづつ挨拶をして、表情や会話から汲み取らせていただいている。	雑誌を見ながら質問を投げかけ、会話の中から意向の把握に努めている。家族からの聞き取りや、それまでの暮らしも参考にしている。職員の聞き取りから話し合い、遠方への外出が実現した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との面会時や、家族からの情報を共有している。入所前のサマリーや看護師、相談員、ケアマネジャーからの情報も参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握して、食事量やバイタル測定を行い、一日の変化に気づけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族のご希望に添う計画書を作成するために、定期的に評価を行い、ご本人が望む生活の実現のために起こりうる課題を本人、家族、職員と話し合い計画書を作成している。	3ヶ月毎にモニタリングを行っている。カンファレンスや家族も参加したサービス担当者会議を経て、計画の見直しを行っている。利用者毎の目標を一覧にして業務日誌に挟み、職員は介護計画を意識しながら支援に当たっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日申し送りをして利用者様の様子を把握している。月1回のミーティング時、話し合いをして情報共有している。それをもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの希望、要望に応えるため、コミュニケーションを密にとっている。体調に変化がみられた時は、速やかに家族に伝えて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族と美容院へ行かれる利用者様もみえます。近隣の美容室に訪問美容に来ていただき、美容師さんとの会話を楽しみにしている方もみえます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月2回の訪問診療があり、利用者様の健康管理をいただいています。体調に変化があった時は受診して診察していただいています。	ホーム協力医による月2回の訪問診療があり、他の専門科の受診が必要な場合は、全てホームで対応している。希望があれば週1回の歯科衛生士による口腔ケアや歯科医による検診、治療も受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしており、週1回看護師による健康管理を行っている。状態の変化や心配なことがあれば相談して、対応の仕方など指導を受けています。また、24時間電話連絡がとれます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の相談員に現在の状態を伝えていただいています。また、退院後のためにかかりつけ医に情報提供していただき、安心して退院していただけるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の対応に係る指針にて、終末期のあり方を伺っています。その時、施設でできること、できないことを十分に説明しています。看取りを希望される方には対応させていただきます。	入居時にホームの方針を説明し、利用者の希望を聞き取っている。段階ごとに選択肢を提示して話し合い、その後の方針を決めている。今年度は、訪問看護と連携しながら1件の看取り支援を行った。職員は法人による終末期対応の研修を受けている。	看取り支援が行われた後には、職員皆で振り返る機会を持ち、今後の取り組みの参考としていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED研修を行っています。急変時の対応、手順、応急処置のマニュアルもあり、定期的に確認して実施できるようにしています。本社での研修もZOOMで参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備え飲料水、食品等備蓄してある。全職員がすぐわかるように各フロアに避難場所、避難経路を掲示している。火災、夜間、水害を想定しての避難訓練を行い、運営推進会議で報告しています。	定期的な避難訓練や設備業者による点検と合わせて、防災知識の講習を受けている。地域包括支援センター主催の会議の中で、地域にある3施設の災害時の連携についての話し合いが行われている。	広域災害時や停電時など、起こりうる事態を具体的に想定し、対応や備品についての見直しを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が気分を害されない声掛けをし、人生の先輩であるという尊敬の気持ちを持って支援しています。個人情報の書類やメモ等は必ずシュレッターにかけ破棄している。	利用者には敬意をもって接し、否定することなく寄り添った支援に努めている。居室での支援に当たっては、入室時に必ず許可をもらい、扉を開放しないなど、プライベートの確保や羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通ができる利用者様とは希望や自己決定を尊重している。できない方は、表情や好みを考慮して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴を嫌がられる方は時間や日にちを変更して対応している。自分で移動できる方は、自由な時間が過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、整髪等身支度を支援しています。服装にこだわりのある方は、そのように支援している。近隣の美容室から2ヶ月に一回、訪問美容に来ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は栄養バランスを考えながら、旬のもの取り入れて献立を決めています。目でも楽しんでいただけるよう彩にも気をつけています。利用者様には野菜の皮むき、おしぼり配り、テーブル拭き等できることを協力していただいています。	利用者の希望を聞きながら、ユニット毎に調理担当の職員がメニューを決めている。利用者は簡単な調理から片付けまで、一連の行程に携わっている。行事食やテイクアウトで、寿司や弁当などを楽しむ機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事表を付け、直ぐに摂取量がわかるようになっています。水分量が少ない方には、好きな飲み物を勧めたりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。ご自分でできない方は介助し行っている。口腔内で困った時は、歯科医師に相談して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに検討し、お一人ひとりのパターンを知ることでトイレで排泄できたり、自立に向けた支援を行っている。	羞恥心に配慮し、利用者を傷つけない支援に努めている。体調を考慮しながら、一人ひとりのリズムに合わせて声掛けし、トイレへ誘導している。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握して、食事、水分、乳製品等を提供して、自然な排便になるよう取り組んでいます。また、動ける方には体を動かしていただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本に行っています。ご本人の希望通りの日程では入浴できないが、時間をずらしたり対応しています。入浴剤を使ったり、冬はゆず湯に入る機会を多く作って、楽しんでいただいています。	1日3名、週2回の入浴を支援している。1階ユニットにはリフト浴があり、重度化した利用者も湯船に入ることが可能である。入浴剤や季節の湯の提供もあり、寛ぎの時間となるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体の状態を考え、昼間もベッドで休む時間を作っています。夜間は落ち着いた環境を作り、安心して休んでいただけるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を理解して、内服していただいています。わからないことがあれば薬剤師に相談して対応している。内服時は、薬のダブルチェックをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができる事を行ってもらい、やりがいや充実感を感じて頂ける支援をしている。レクリエーションを1,2階合同で行い、いつもと違う楽しみを作っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添っての外出はできていない。春と秋は138タワーパークに行き、季節の花を楽しんでいただいています。ドライブや近くの喫茶店に定期的に行っています。	日常的に散歩に出かけ、近隣の喫茶店への月1回の外出も継続して支援している。利用者に馴染みある神社や公園へ出かけ、昔を懐かしむこともある。利用者毎の希望に沿った個別の外出は、家族支援によって行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しいため、現金はお持ちいただいています。ご本人からのご希望がある時は家族と相談して対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の方はいつでも電話、ZOOM等の支援をしています。ご本人が携帯電話を所持して連絡を取っている方もみえます。たまに葉書を書いていただくこともあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室の入口は誰がみてもわかりやすい文字で案内しています。壁画は季節に合わせて飾り付けをしています。	利用者の日常の様子や行事の写真が掲示されており、利用者や家族との会話のネタになっている。廊下に置かれたソファの前に貼られた歌詞を見ながら、利用者は歌を口ずさんでいる。リビングも廊下も、利用者が安全に移動できる十分な広さがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも好きな時に利用できるソファがフロアにあります。利用者様同士談笑したり、くつろいだりしてみえます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	楽しい思い出の品を自宅からお持ちいただき、居室に飾っていただき、安心して過ごしていただけるように家族様と考えている。また、家族様が面会時に写真を撮り、飾っている。	仏壇や鏡台など、多数の家財が持ち込まれていたり、本人の希望で書き込みができるカレンダーが架けられていたり、安全確保のため何も置かれていない居室と、それぞれの暮らしが反映された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口には名札を貼り、表示している。また、外出時のご本人の写真や、好きな動物の写真を貼ってわかりやすくしています。廊下には手すりが設置してあり、これを使い移動の手助けをしている方もいます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201943		
法人名	株式会社アバンセラライフサポート		
事業所名	グループホームこころ(2階)		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村東373-1		
自己評価作成日	令和6年2月12日	評価結果市町村受理日	令和6年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2372201943-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和6年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の一人ひとりが、その人らしく安心して生活できる様に支援しています。その為に利用者様の体調に気を配り問題があれば、かかりつけ医に相談し対応しています。
 また、やりがいや楽しみを感じていただける様に、施設の中のできる事をお願いしたり、日々のレクリエーションを楽しんでいただけるように、工夫してしています。
 近所の喫茶店でモーニングをいただいたり、気候の良い時は、施設の周りを散歩して地域の様子も感じていただけるように支援しています。ご家族様には面会時、日頃の様子をお伝えしてご希望などを伺うようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針、こころの理念をフロアに掲げている。毎朝の申し送り時、出勤職員が唱和して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加している。施設のクリスマス会に地域の方も招待し参加して頂いている。近くの喫茶店に行き、顔なじみになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年5月より徐々にイベントに参加していただくよう声掛けをさせていただき、施設への理解を深めていただこうとしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年5月より2ヶ月に1回運営推進会議を開催しています。施設の活動や状況を報告して、意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者様の様子を年2回報告して、1月には市の担当者が施設で面会されています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の会議を3ヶ月に1回、開催しています。本社の研修にも参加して学び実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	本社の研修を受け、ミーティングで話し合い、身体拘束をしないケアを正しく理解し、取り組んでいる。本社施設長会議でも担当者より虐待防止徹底の話があり、職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の後見人である司法書士さんに困った時は相談できる環境です。次回の運営推進会議で後見人についての講話を予定しており、職員も知識を高めていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとっていただき、ご家族様の不安や疑問に対して誠意を持ってお答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置してある来所記録に意見を記入できるようにしている。また、面会時、電話連絡時に利用者様のご様子を報告して、家族様の意見を伺い運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所には代表者への意見が伝えられるように提案箱が設置されている。また、ミーティングや申し送り時に意見を伝えてもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回職員全員に自己評価をしてもらい、本社で給与の見直しを検討している。資格取得のための研修を本社で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップのため、本社で研修の年間計画があり、順次参加して知識を高めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	おでかけ広場に参加させていただき、交流している。また、法人内でのリモート会議、研修に参加して情報交換の場にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご本人、ご家族の要望を十分に聞かせてもらっている。入所前にご本人とお会いして状況、生活習慣を把握して安心して入所していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に施設を見学していただき、困っていることや質問を伺い、気軽に話せる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供前に伺っている情報やアセスメントをもとに職員と共有して、必要な支援を提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とのコミュニケーションをとることで希望を把握し、できることはしていただき、充実感を感じてもらえるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、病院受診があった時に近況報告をしている。ご本人の様子を家族様と共有して、寄り添う協力をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症に注意していただきながら、家族や友人との面会、家族との外出、外泊が自由にできるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアーのソファは会話しやすい場になるようにして、誰とでも会話できるスペース作り、利用者同士が関わりあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員がコミュニケーションを密にとり情報を共有して、ご本人の希望を把握するよう努めている。業務に入る前には必ずおひとりづつ挨拶をして、表情や会話から汲み取らせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのコミュニケーションから希望や意向を把握し、コミュニケーションが困難な時は、本人の希望と意向を日々汲み取り、本人の意に添うよう対処している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から生活歴を伺い、馴染の暮らしができるよう、環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定を行い体調管理をしています。一人ひとりの体調や心身の状態に合わせ、居室で休んでいただいたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	解決すべきケアは、毎日の申し送りで話し合い、それを反映し、介護計画を作成し、よりよく暮らせるよう援助している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はタブレットで行っている。細かい情報は、連絡ノートに記載して共有している。ミーティングで話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の訪問歯科、理容を活用している。終末期、常時医療が必要でない方の看取りを行っており、希望される方もみえます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の美容室から訪問美容に来ていただき、美容師さんとの会話を楽しみにしている方もみえます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月2回の訪問診療があり、利用者様の健康管理をしていただいています。体調に変化があった時は受診して診察していただいています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしており、週1回看護師による健康管理を行っている。状態の変化や心配なことがあれば相談して、対応の仕方など指導を受けています。また、24時間電話連絡がとれます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の相談員に現在の状態を伝えていただいています。また、退院後のためにかかりつけ医に情報提供していただき、安心して退院していただけるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の対応に係る指針にて、終末期のあり方を伺っています。その時、施設でできること、できないことを十分に説明しています。看取りを希望される方には対応させていただきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED研修を行っています。急変時の対応、手順、往診、応急処置のマニュアルもあり、定期的に確認して実施できるようにしています。本社での研修もZOOMで参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備え飲料水、食品等備蓄してある。全職員がすぐにわかるように各フロアに避難場所、避難経路を掲示している。火災、夜間、水害を想定しての避難訓練を行い、運営推進会議で報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が気分を害されない声掛けをし、人生の先輩であるという尊敬の気持ちを持って接している。個人情報の書類やメモ等は必ずシュレッターにかけ破棄している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望に耳を傾け、自己決定ができるように声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせ、無理強いせず、自由な時間が過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選ばれる方は、その日の気分で着替えてみえます。職員が選ぶ方は、ご本人の好みや温度を考慮して着替えていただきます。入浴後に、化粧水を使用される方もみえます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせて、旬の食材を活用して提供しています。なかには職員と一緒に準備を手伝ってくださる方もみえます。下膳をしてくださる方もみえます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	魚、肉、野菜等バランスよく栄養が摂れるように提供している。一人ひとりの食事や水分量の把握をして、水分量の少ない方には休まれるまでに勧めるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自力でできない方は介助している。自立している方は声かけている。問題のある時は、歯科医師に相談して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに検討し、お一人ひとりのパターンを知ることによってトイレで排泄できたり、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すため、午前の水分補給時にバナナヨーグルトを提供している。また、一人ひとりのタイミングを知りトイレでの排泄の習慣に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は予定されているが、希望されない日は日にちや時間を変更している。言葉かけや音楽など工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活習慣に合わせて昼寝をしたり、休息したりできる支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はいつでも確認できるよう薬剤情報があり、利用者の体調の変化を申し送りして対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができる事を行ってもらい、やりがいや充実感を感じていただける支援をしている。また、気分転換に近くを散歩したり喫茶店へ出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添っての外出はできていない。気候の良い時は、138タワーパークへ行き、季節の花を楽しんでいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は希望により、お金を所持されている。希望に合わせて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スマートフォンを持参されている方はご自分で電話されている。希望される方は、会社から電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの壁画は季節に合わせて張り替えている。季節の花も飾り、楽しんでいただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファがあり、自由に座ることができるようにしてある。隣同士に座ることで、会話されてみえる方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に本人の馴染の物や写真を持って来ていただき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室等の表示は大きく分かりやすくしてある。居室に入ると自分の部屋と認識していただけるように工夫しています。		